

## 〔地方凡例錄二〕森林之事

付○中 木立見立之事○中 山林竹木仕立方之事○中

略○中

一總て御林を見立るに、峯通りは風強く、木の育方悪敷、延丈無甲斐、雜木は少く、松多して曲木勝成物也。然共峯通りの松は、風雨にもまれて、小木の時より木筋ねぢれて堅く育上る故、梁引物に遺ふて格別に強し、水にも腐遲し、山の中腹は木立茂るものなり、然て大木は少く木の延はよし、裾通りは別て育よし、大木も有り直成木多し、檜杉の類は濕氣水氣好故、裾通り谷間等吉、中腹より岸峯には育立悉く惡し、すべて海邊汐風強當る林は木立不宜適々大木有ても、節曲木而已なり、又北請之山は木聳へて育立惡敷、杉檜はよし、尤日請風當等之様子に隨ひ、何れ一様には云ひ難し。  
略○中

一山林竹木仕方、凡木を植る處は深山幽谷土地厚き處吉、高岡は其次也、松は峯に宜、杉は谷に宜、平地にても杉檜松桐櫻等之太り安き木、肥地に植れば拾箇年之内外にて材木に成文薪に用雜木は四五ヶ年之内也、四木の類、或栗柿桃梨は實植、又は接木にしても二三年の内に實を結地味を考へて植べし、田家に木を植るは西北之方に吉し、竹は東北角に植陽氣を包み、又盜賊之防、火難之防、枝葉薪に用、落葉はこやしに成る、旁吉、垣には枸杞五架葉枳穀を植、眞木栗枇杷桃之類を植べし、扱又新林仕立方を用木の爲ならば、松杉はよし、三四尺づ、間を置植、次第に茂るとき木振惡敷は伐り、又は植替べし、實生三年目苗木を植るが吉、野地萱原地等其儘植るは育ち遲し、切開て何ぞ一作して、其跡を畝ひて植れば、よく附て早く成木す、養ひは下糞吉したる肥しにて植れば、千万本に一本も枯る、事なし、育立に隨ひ、追々枝を打薪にすべし、松の枝は本木際より伐杉は枝を壹寸計残して切、残りたる所を本木之際より皮をむきて置ば、節入に不成、又薪の爲の林は槲山檜榎抜取交植べし、小木の内落葉取れば育立遲し、不取ば朽て